

## 2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 31日

## I 概要

実践団体・担当者名	徳島県由岐町立由岐中学校 (担当者：大田 弘士、浜 大吾郎)	
連絡先	由岐中学校：0884-78-0058 由岐町総務課：0884-78-2211	
プランタイトル	次世代に夢をつなぐ防災カレンダーづくり	
目的	生徒達が防災教育を通じて防災に関する知識・技能を習得し、さらには地域の防災上の課題などを共通認識した上で、その解決方法等を考える。そしてそれをカレンダーにして地域全戸に配付することにより、生徒達が地域の防災力の向上に貢献することを目的とする。	
プランの概略	<p>1学期：防災に関する知識・技能の習得、地域の防災上の課題等の抽出 「災害の恐ろしさを知る」、「過去の被災状況を知る」、「防災訓練」、「地震津波のメカニズム等を知り対策を考える」、「地域の防災マップづくり」、「防災と福祉について考える」、「災害防災インタビュー」</p> <p>2学期：防災カレンダーの作成 「防災カレンダーの作成（1～6月）」、「防災標語の作成」、「災害が起こった日を調べる」、「災害復興会議の開催」、「防災カレンダーの作成（7～12月）」</p> <p>3学期：防災カレンダーの配付 「防災カレンダーの配付及び郵送」</p>	
プランの対象と参加人数	由岐中学校1学年32人	
実施日時	2005年5月13日～2006年2月24日（予定） 「総合的な学習」の時間を利用。延べ授業時間は40時間（1時間＝50分）。	
主な実施場所	基本的には由岐中学校内で実施したが、「防災マップづくり」、「災害防災インタビュー」、「防災カレンダーの作成」、「防災カレンダーの配付」の際は、校区内の地域に出かけて実施した。	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	①徳島大学 環境防災研究センター ②徳島市社会福祉協議会 ③高知タウン情報誌「ほっとこうち」編集部
	連携したきっかけ・理由	徳島大学環境防災研究センターと徳島市社会福祉協議会は、防災や福祉の面で県内では有名であり、また面識もあった。「ほっとこうち」編集部には、地域のカレンダーを作成した社員がいると聞いていたので、サポートをお願いした。
	連携団体へのアプローチ方法	①及び②は、以前より面識があった。 ③は、地域のカレンダーを作成した社員の知り合いに紹介をお願いし、サポートを引き受けて頂いた。
	連携団体との打合せ回数	電話による打ち合わせ およそ3回 メールによる打ち合わせ およそ4回
	連携団体との役割分担	①は南海地震津波のメカニズムや、想定南海地震の被害予測について、②は災害ボランティアについて、③はカレンダーの作り方などについて講演して頂いた。

## II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2 名
	外部スタッフの総人数	0 名
	主なメンバーの 役職・役割	○由岐町総務課 消防防災担当 浜 大吾郎 ・プラン全体のプロセスデザイン ・講師の選定及び交渉 ○由岐中学校 防災教育担当 大田 弘士 ・学校内の年間カリキュラムの調整 ・生徒達の実態に合わせたプランの修正
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年 1月14日 ~ 2005年 4月28日
	立案時間	およそ20時間
	上記のうち打合せ回数	1時間×7回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<p>プラン全体を防災の内容だけで固めてしまうのではなく、生徒達が防災学習を通じて、防災はもちろんのこと、グループワークの楽しさやモノをつくる楽しさなど、様々なことに興味を持つような仕掛けづくりをプランニングした。具体的には、プランを前半と後半に分け、前半は防災や福祉に関すること、防災訓練、地震津波のメカニズムなど。後半は被災後の復興計画づくりやカレンダー作成のためのデザインに関する内容、防災標語づくり、手紙の書き方などを織り交ぜた。</p> <p>さらに地域との関わりも重視し、災害を語り継ぐ会や防災マップづくり、インタビューゲーム、カレンダーの配布などを計画した。</p>	
プラン立案で 苦労した点	<p>生徒達の実態やキャパシティを配慮して、プランニングすることに大変苦労した。具体的には、プロセスのたたき台を由岐町総務課の浜が作成し、それを生徒の実態に合わせて由岐中学校の大田が修正を加えるという作業を数回行うことで、生徒達に合ったプランを作成した。</p>	

## III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5 名
	外部スタッフの総人数	1 名
	主なメンバーの 役職・役割	○由岐町総務課 消防防災担当 浜 大吾郎 学習の準備、学習のコーディネート、学習終了後の結果及び 考察、講師派遣の調整、カレンダーの校正など ○由岐中学校 防災教育担当 大田 弘士 学習の準備、学習のコーディネート、学習終了後の結果及び 考察 ○由岐中学校1年生教師団(3名) グループワーク時のファシリテーション ○早稲田大学大学院 齋藤 亮 学習の準備、グループワーク時のファシリテーション
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年 5月10日~ 2006年 2月24日(予定)
	準備総時間	毎学習前 およそ5時間  ただしカレンダー作成段階ではおよそ20時間

	上記の内打合せ回数	毎学習前 およそ2回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	徳島県教育委員会
	どのように働きかけたか	徳島県庁内部で徳島県教育委員会が、由岐中学校の防災教育チャレンジプランのエントリーを知り、「共催させて欲しい」と申し出があった。
	結果	徳島県教育委員会から平成17年度防災教育推進モデル校の指定を受け、20万円を補助して頂いた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	昭和南海地震津波体験者 眞南卓哉 西の地防災きずな会（地元の自主防災組織）会長 四宮治義 地域住民全般
	どのように働きかけたか	眞南卓哉氏には昭和南海地震津波体験談について、四宮治義氏には地元で取り組んでいる自主防災対策について、講演して頂いた。地域住民の方々には、防災マップづくりや災害防災インタビュー等の際に、アポイントなしでお世話になった。
	結果	眞南氏の体験談では、由岐町の過去の被災状況を知ることができ、四宮氏の講演では、自主防災対策を知ることができた。さらに地域住民からは、災害防災インタビューなどで貴重な体験談やご意見などをお聞きすることができた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	なし
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	機材：プロジェクター、スクリーン、延長コード、スピーカ、DVDプレーヤー、デジタルカメラ、パソコン、キーホルダー型フェイスシールド、画板、シニア体験セット、車いす、担架、CD-R、ロープ、航空写真、スタッフ 教材：DVD「20世紀 日本の地震災害」、DVD「20世紀日本大災害の記録」
	入手先・入手方法	機材・教材のほとんどは中学校や役場にある物を使用した。ただし下記の機材等は借用もしくは提供して頂いた。 ○借用した機材 シニア体験セット（徳島県介護実習・普及センター） ○提供して頂いた機材 航空写真（徳島県水産課）
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	プロジェクター等については、生徒達にできるだけ学習全体の内容を伝わりやすく、かつ印象づけるために映像やPPTファイルで表現した。キーホルダー型フェイスシールドは、防災訓練終了後、心肺蘇生法をいざという時、実践しやすいように配付した。シニア体験セット、車いす、及び担架は、防災と福祉の接点を結びつけるために使用した。 航空写真は地図よりも地域全体を理解しやすいので使用した。教材のDVDは、過去の災害を非常に分かりやすく整理しているので使用した。

参加者の募集	募集方法	
	募集期間	年 月 日 ~ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点	<p>学習全般をできるだけ楽しく、かつ建設的なものにするため、準備等には沢山の時間を費やした。具体的には「準備・結果・考察」に費やす時間は、学習時間×5倍以上を目標にした。時間をかければ必ず良い学習プログラムができるという訳ではないが、手抜きをせずに学習プログラムを作ることは、生徒達の学習の受け止め方にも影響していたように思う。</p> <p>まずグループワークの準備では、事前にスタッフがそのグループワークを実施して、設問のチェック等を行った。さらに生徒達にグループワークやフィールドワークの実施内容をイメージしやすいように、事前に作成例を作っておき、グループワークの説明の中で展示するようにした。</p> <p>次に防災カレンダー作成段階では、生徒達が作成した素材をもとに、Adobe Illustrator や Adobe Photoshop を用いてデータ化するのに、非常に多くの時間を費やした。(データは全てスタッフで作成したので、印刷コストを抑えることもできた。)</p> <p>また学習プランのアイデアが浮かばない時はスタッフ内で試行錯誤したが、チャレンジプランのメーリングリストで関係者に相談することにより、道が開けたこともあった(特に復興計画作成時の「フラワーロード」と「防潮林」。メーリングリストでいろいろなアドバイスを受けていなかったら、復興計画はもっとハード的な計画に偏っていたかも知れない)。</p>	

## IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 1月	○ 1/12 第1回打ち合わせ ○ 1/14 プラン作成・応募		
2月	○ 2/8 第2回打ち合わせ ○ 2/9 第3回打ち合わせ ○ 2/25 第4回打ち合わせ		
3月			
4月	○ 4/21 第5回打ち合わせ ○ 4/25 第6回打ち合わせ ○ 4/28 第7回打ち合わせ 「スケジュールプラン完成」	○ 4/21～4/27 講師との日程調整	
5月		○ 5/2 ワークショップ用文房具の購入 ○ 5/12～5/22 防災教育の準備・まとめ (この期間は毎日)	○ 5/13 災害の恐ろしさ ○ 5/16 災害を語り継ぐ ○ 5/17 防災訓練 ○ 5/20 メカニズム等
6月		○ 6/1～6/3 防災教育の準備 ○ 6/9～6/12 防災教育の準備・まとめ ○ 6/11 シニア体験セットの借り上げ ○ 6/15～6/19 防災教育の準備・まとめ ○ 6/18 シニア体験セットの返却	○ 6/3 防災マップ① ○ 6/10 防災マップ② ○ 6/17 防災と福祉
7月		○ 6/28～7/1 防災教育の準備 ○ 7/7～7/10 防災教育の準備・まとめ ○ 7/10～7/15 防災教育の準備	○ 7/1 災害体験①-① ○ 7/8 災害体験①-② ○ 7/15 ふり返り
8月			○ 夏休みの宿題として 「南海地震の絵」
9月		○ 9/27～10/2 防災教育の準備・まとめ	○ 9/30 防災加ッガ - 「1～6月」
10月		○ 10/12～10/15 防災教育の準備・まとめ ○ 10/18～10/21 防災教育の準備	○ 10/14 防災標語 ○ 10/21 今日は何の日①
11月		○ 11/4～11/7 防災教育の準備・まとめ ○ 11/7～11/10 防災加ッガ -のデータ作成 ○ 11/8～11/14 防災教育の準備・まとめ ○ 11/23～11/25 防災教育の準備	○ 11/4 今日は何の日② ○ 11/11 復興会議、 加ッガ -校正 ○ 11/18 復興計画 ○ 11/21 公開取材 ○ 11/25 防災加ッガ - 「7～12月」
12月		○ 12/7～12/9 防災教育の準備 ○ 12/10～12/15 防災加ッガ -のデータ作成 ○ 12/24～12/28 防災加ッガ -のデータ作成 ○ 12/30 印刷発注	○ 12/9 防災加ッガ - 「7～12月」 ○ 12/16 加ッガ -の校正
2006 1月		○ 1/12 加ッガ -完成及び納品 ○ 1/19～1/20 防災教育の準備	○ 1/13 手紙の書き方 ○ 1/20 加ッガ -の配付 ○ 1/26 学習発表会 ○ 1/24～31 報告書作成
2月			○ 2/24 最終のふり返り (予定)

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	地震津波の恐ろしさを知る	災害を語り継ぐ	防災訓練	地震津波のメカニズムを知り、対策を考える
実施日	5月13日	5月16日	5月17日	5月20日
所要時間	50分×2	50分	50分	50分×2
達成目標	災害の恐ろしさを知り、GWで「災害時の身のまわりの物や人」について考え、共同で進めていく力を養う。	過去の被災状況や災害の恐ろしさ、命の尊さについて知る。	災害時に的確に行動できる技能を習得する。	地震津波のメカニズムや想定南海地震を知る。GWではKJ法により対策を考える。
生成物	・グループワークの結果 ・アンケート	なし	なし	・グループワークの結果 ・アンケート
進め方 (箇条書き)	・DVD「20世紀日本の地震災害」を鑑賞 ・グループワーク「災害時の身のまわりを考える」 ・グループ発表 ・アンケート	・昭和南海地震津波の体験談 ・朗読「シロのないた海」 ・質疑応答	・起震車による地震体験 ・心肺蘇生講習 ・質疑応答	・講演「南海地震が起これば由岐町はこうなる」 ・グループワーク「災害時の対策を考える」(KJ法) ・グループ発表 ・アンケート
ツール (特別に用意したもの)	・プロジェクターなど ・DVDプレーヤー ・ワークショップ用文具 ほか	・プロジェクター ・スクリーン ・パソコン	・起震車 ・レサシアン ・キーホルダー型フェイスシート	・プロジェクターなど ・パソコン ・ワークショップ用文具 ほか
場所	由岐中学校1学年教室	由岐中学校2階ホール	玄関前駐車場(起震車)、心肺蘇生講習(体育館)	由岐中学校家庭科室

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	地域の防災マップをつくろ う!①	地域の防災マップをつくろ う!②	防災と福祉を考えよう!	災害防災インタビュー①
実施日	6月 3日	6月10日	6月17日	7月 1日
所要時間	50分×2	50分×2	50分×2	50分×2
達成目標	前回のGWを受けて、地域の中で災害時の危険な場所や安全な場所などをさがす。	地域の防災マップを完成させることで、地域の防災上の課題などを探る。	防災と福祉との関係の重要性について知る。	地域の人々に災害体験や防災に関するインタビューを行うことで地域に対する関心を持つ。
生成物	・防災マップに使用する素材	・地域の防災マップ	アンケート	・インタビュー・カード ・取材した人の顔写真
進め方 (箇条書き)	・各班で担当する地域を選定 ・各地域の防災探検	・大型地図に浸水予測図を記入 ・各地域で調べてきたことを記入	・災害ボランティア体験談 ・災害時要援護者体験 「シニア体験、車いす、担架」 ・旗揚げ式アンケート ・アンケート	・災害防災インタビューの説明 ・班に分かれてインタビュー
ツール (特別に用意したもの)	・各地域の地図 ・メモ用紙 ・津波浸水予測図	・各地域の大型地図 ・前回の写真 ・防災マップ作成の極意	・プロジェクターなど ・シニア体験セット ・車いす、担架 ほか	・インタビュー・カード(4種類) ・デジカメ×6台 ・各地域の地図 ほか
場所	由岐中学校の校区全体の地域	由岐中学校家庭科室	由岐中学校家庭科室ほか	由岐中学校の校区全体の地域

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	災害防災インタビュー②	1学期をふり返る	防災カレンダーづくり① 「1～6月まで」	防災カレンダーづくり② 「防災標語」
実施日	7月 8日	7月15日	9月30日	10月14日
所要時間	50分×2	50分×2	50分×2	50分×2
達成目標	取材内容をまとめる力と、プレゼンテーション能力を養う。	1学期の学習内容をふり返って反すうさせ、2学期につなげていく。	カレンダーづくりを通じて、人に伝えることのおもしろさや、モノを作る楽しさを知る。	防災標語を全員で考えることにより、防災に対する共通認識を持つ。
生成物	・災害防災インタビューの成果品	・2学期につなげたいことを記入した模造紙	1～6月までのカレンダーに使用する素材	・防災標語
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ、各班で撮ってきた写真を印刷</li> <li>・各班で、模造紙に災害防災インタビューをまとめる</li> <li>・各班ごとにプレゼンテーション</li> <li>・互いに評価し合う</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ1学期の成果物を壁一面に貼っておく。</li> <li>・1学期に学習したことをふり返るスライドを見せる</li> <li>・2学期につなげたいことを各班ごとにまとめる</li> <li>・グループ発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「カレンダーづくりの極意」</li> <li>・カレンダーの基本形の検討</li> <li>・カレンダー素材の検討・作成</li> <li>・グループ発表</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ教室にロープをわたしておく。</li> <li>・防災標語のキーワードの検討</li> <li>・個人個人で防災標語を短冊に記入し、出来上がったらロープに吊す</li> <li>・互いに防災標語の評価</li> </ul>
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・得点用シール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターなど</li> <li>・ワークショップ用文具</li> <li>・1学期の成果物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターなど</li> <li>・パソコン×6台</li> <li>・写真データ ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロープ</li> <li>・短冊</li> <li>・マジック、筆ペン</li> </ul>
場所	由岐中学校家庭科室	由岐中学校体育館	由岐中学校家庭科室ほか	由岐中学校1学年教室



## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災カレンダーづくり③-1 「今日は何の日フッフ〜♪」	防災カレンダーづくり③-2 「今日は何の日フッフ〜♪」	未来予想図 ～災害復興会議～	防災カレンダーづくり④-1 「7～12月」
実施日	10月21日	11月4日	11月11日	11月18日
所要時間	50分×2	50分×2	50分×2	50分
達成目標	過去の災害を調べることで、 より、教訓を得る。	過去の災害を調べることで、 より、教訓を得る。	生徒自らが災害復興の方策を 考えることで、由岐町の地域 づくりを考える。	由岐町復興計画案の中から テーマを選定し、その表現方 法を考える。
生成物	・災害カード	・災害カードをまとめた模造 紙	・由岐町復興会議結果 ・由岐町復興計画案	テーマと表現方法を記した 用紙
進め方 (箇条書き)	・各班で調べる月を決定 ・ビデオ学習 「20世紀日本 大災害の記録」 ・各班ごとに、担当する月 における過去の災害を調べる	・前回の調べ学習の続き ・班ごとに災害カードを模造 紙にまとめる ・グループ発表 ・スタッフによる評価 (特に協力できていたかの 評価)	・30年後の生活を考える。 ・想定南海地震の物語をスラ イドで見せる。 ・災害復興会議を開き、復興 対策を検討 ・防災カレンダー「1～6月」 の校正	・各班で、前回作成した由岐 町復興計画案の中から、カ レンダー素材にするテー マを選定 ・選定したテーマの表現方法 の検討 ・グループ発表
ツール (特別に用意した もの)	・プロジェクターなど ・災害チョイス・カード ・災害カード ほか	・模造紙 ・得点用シール	・プロジェクターなど ・2種類のプリント ・かつら ほか	・由岐町復興計画案
場所	由岐中学校1学年教室	由岐中学校1学年教室	由岐中学校1学年教室	由岐中学校1学年教室

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	公開取材	防災カレンダーづくり④-2 「7～12月」	防災カレンダーの校正と感想文づくり	お世話になったあの人に防災カレンダーをわたそう①
実施日	11月21日	11月25日、12月9日	12月16日	1月13日
所要時間	50分	50分×4	50分	50分
達成目標	雑誌の公開取材を通じて生徒達に防災教育のねらいを伝える。	前回選定したテーマ及び表現方法をもとに、カレンダーの素材を作成する。	校正を通じてモノづくりの楽しさを知る。また感想文を書くことにより、全体をふり返る。	防災学習でお世話になった方々に防災カレンダーを配付及び郵送することで、地域との関わりを深める。
生成物	なし	7～12月までのカレンダーに使用する素材	・校正後のカレンダー ・感想文	(目には見えないが)地域の方々との絆
進め方 (箇条書き)	・大田と浜が受ける教育情報誌 Cue の取材模様を、生徒達に公開する。 ・取材の中で、ときどき旗揚げ式アンケートを行って、生徒の感想や意見などを聞く。	・前回選定したテーマ及び表現方法をもとに、カレンダーの素材を作成 ・防災カレンダーの校正	・防災カレンダー「1～12月」の校正 ・防災学習全体をふり返って感想文を書く。	・あらかじめ防災学習でお世話になった人をリストアップ ・各班でカレンダーを配付・郵送する人を選定 ・手紙を書く。
ツール (特別に用意したもの)	・4種類の色画用紙	・航空写真 ・スタッフ ・スーツ、消防ハッピー ほか	・防災カレンダー「1～12月」	・便せん ・封筒
場所	由岐中学校2階ホール	由岐中学校家庭科室、1学年教室及び各地域	由岐中学校1学年教室	由岐中学校1学年教室

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	お世話になったあの人に防災カレンダーをわたそう②	防災学習をふり返って		
実施日	1月20日	2月24日		
所要時間	50分×2	50分		
達成目標	防災学習でお世話になった方々に防災カレンダーを配付及び郵送することで、地域との関わりを深める。	防災学習全体をふり返って反すうさせる。		
生成物	(目には見えないが)地域の方々との絆	なし		
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班ごとに、防災学習でお世話になった方々に防災カレンダーを配付及び郵送する。</li> <li>・最後のことは「防災学習」と「星の王子さま」に関する話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジプランの結果報告</li> <li>・防災学習全体のふり返り</li> </ul>		
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災カレンダー</li> <li>・手紙</li> <li>・書籍「星の王子さま」</li> </ul>	・プロジェクターなど		
場所	由岐中学校1学年教室	由岐中学校1学年教室		

## VI実践後

参加者へのアンケート結果	<p>1学期の防災学習では、生徒達の反応を客観的に知るために、毎回のように学習終了後、アンケート調査を行った。それにより生徒達の防災学習に対する興味の深さや、生徒一人ひとりの考え方などを知ることができた。さらに生徒達自身の中では、アンケートに回答することで学習の反すうとなった。</p> <p>また学習全体を通して、12月に感想文を書かせたが、防災学習を通じて「命の大切さ」や「絆の大切さ」、「地域との結びつきの重要性」などを学んだという意見が多く書かれており、スタッフ全員が改めて防災教育の重要性を再認識した。</p>	
成果として得たこと	<p>○スタッフが成果として得たこと 防災教育を通じて生徒達と真剣に向き合い、「教える」ではなく「導く」ということに意識して学習を続けてきた。その結果スタッフは、生徒達の探求心・協調性の向上や、思いやりの心などを肌で感じることができ、スタッフ全員で驚いた。防災教育によって教育の原点を見つめ直す、とても貴重な機会を持てたと思う。</p> <p>○生徒達が成果として得たこと 最初は防災に対してやる気が見られなかった生徒達も、回を重ねることに興味を持ち、グループワークなどで協力し合って何かを組み立てていく楽しさや、地域との結びつきの大切さ、日常生活の大切さ、命の大切さなどを心に刻むことができた。生徒達はこれからの長い人生の中で、きっとそれらを思い出すことがあるだろうと思う。</p> <p>また、アウトプットとして今回作成した防災カレンダーは、将来ずっと生徒達の宝物になることだろう。</p> <p>○地域が成果として得たこと この防災カレンダー配布後、地域から「とても良い」というお褒めの言葉を多数頂いた。また地元新聞の「読者の手紙」にも掲載され、地域にとっても、それは宝物になったようだ。しかし本当の宝物は、防災カレンダーを通じて日頃の防災意識の向上や、地域内での絆の重要性の再認識、さらには地域を愛する生徒達そのものなのだろうと思う。</p>	
成果物	<p>(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災教育のスケジュール</li> <li>○ アンケート及び感想</li> <li>○ 新聞記事(郵送)</li> <li>○ 報告書(現在作成中、でき次第郵送)</li> <li>○ 学習実施案</li> <li>○ 防災カレンダー</li> <li>○ ニュース映像(郵送)</li> </ul>	
広報方法	広報した先	徳島新聞社、毎日新聞徳島支局、読売新聞徳島支局、NHK徳島放送局、四国放送
	広報の方法	電話連絡により広報した。
	取材にきたマスコミ	徳島新聞社、毎日新聞徳島支局、読売新聞徳島支局、NHK徳島放送局、四国放送、日本教育新聞社、第一法規(情報誌 Cue)
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	<p>徳島新聞(2005/5/14, 12/21, 2006/1/26に掲載)</p> <p>毎日新聞(2006/1/17に掲載)</p> <p>読売新聞(2006/1/17に掲載)</p> <p>日本教育新聞社(2005/10/24に掲載)</p> <p>教育関係情報誌 Cue(2006冬号に掲載)</p> <p>四国放送「530フォーカス徳島」(2005/12/21に放映)</p> <p>NHK「イブニング徳島」(2006/1/20に放映)</p>
	失敗点	なし
成功点	<p>普段は地域とかけ離れがちな学校教育ではあるが、新聞やテレビに出して頂くことによって、地域の人々に大きな関心を持って頂くことができた。また生徒達は注目されることで、少し自信と責任感がついてきたように思う。</p>	

<p>全体の感想と 反省・課題</p>	<p>「人と人との温かいつながり、ふるさとを愛する心」カレンダーの裏にあるこの言葉は、地元教員として私が最も大切にしている言葉です。過疎化が深刻な我が由岐町では、町外へ出て行く若者が後を絶たず、将来由岐町にとどまる生徒を育てたい。そのためには、「由岐町を今以上に知ってもらい、今以上に愛してほしい」という願いを持っています。この防災学習を通じて生徒たちは地域の中に入り、地域の人とふれあう中で、人と人とのつながりの大切さや町の良さに気づき、由岐町を好きになってくれたと思います。防災学習で深めたつながりと、ふるさとを愛する心を生涯持ち続けてほしいです。</p> <p style="text-align: right;">由岐中学校 大田 弘士</p> <p>中間報告で林先生から「アウトカム」の重要性について、私は理解したつもりでいました。しかし、この1年間の防災教育を通じて、「私は勘違いしていたかも知れない」と思いました。私達は生徒達と一緒に防災教育を通じて「防災カレンダー」というハードのアウトカムを作った気でしたが、それは単なるアウトプットでしかありませんでした。本当に素晴らしいアウトカムは、生徒達の内面の変化、つまり目には見えないアウトカムなのだと思います。彼らの感想の中にもあるように、「命の大切さ」や「絆の大切さ」、「地域との関わりの重要性」などの再発見こそが、最も重要なアウトカムだったと、今、確信しています。</p> <p>私にとってこの1年は本当に大変な1年間でしたが、貴重な経験をした1年でもありました。このチャンスを頂けた、防災教育チャレンジプラン実行委員会の皆様に心から感謝いたします。そして防災教育を通じて学んだ生徒達一人ひとりの温かい心が風化することなく、成長し続けることを心から願っています。</p> <p style="text-align: right;">由岐町総務課 浜 大吾郎</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度以降の進め方</p>	<p>今回実施したクラスにおいては、防災教育は今年度1年で終わりとなるが、防災だけにこだわらず、自分自身やふるさとを見つめ直す学習プランを立てていく計画である。</p> <p>なお防災教育については今後、1年生の総合的な学習の時間を利用して、実施していくつもりである。</p>
	<p>是非実施してみたい 取り組み</p>	<p>南海地震や防災対策を題材にして、各地域の飛び出す絵本をつくってみたい。</p> <p>また由岐町では津波避難もちろん重要なのだが、その後の避難所生活や仮設住宅建設などが大きな問題となることが予想されている。そこで中学生の新しい発想を取り入れてそれらの対策を考え、地域に発信していきたい。</p>

## 自由記述

今回初めて由岐中学校では、由岐町総務課と協働で防災教育を実施してきました。以前は学校単独で実施していましたが、この防災教育チャレンジプランの応募がきっかけとなって、連携する運びとなりました。実のところ、計画段階では本当にうまくいくのかどうか、学校としても役場としても本当に不安でした。

しかし防災教育が開始されると、その不安は一気に吹き飛びました。役場の持っている豊富な情報や人脈と、学校が持っている学習ノウハウがうまくかみ合い、その中で生徒達は楽しく前向きに学習することができました。

結局、防災学習プランを良いものにできるかどうかは、そのスタッフの能力とそれを補完するための人脈、さらにはスタッフと生徒達のモチベーションに左右されるのだらうと思います。

ところでこのたびの防災教育では、手前味噌ではありますが、そこそこ見栄えの良いものが出来上がりました。ですが決して順風満帆に学習プログラムが進んだ訳ではありません。特に復興計画を考える学習プログラムでは試行錯誤の連続で、なかなか良い手法が見つからず、かなり悩んだ時期がありました。とにかく過去の災害から事例を学ぼうと、スタッフ全員で阪神淡路大震災の復興誌や、新潟県中越地震の復興計画を調査しました。また、チャレンジプランのメーリングリストからも様々なアドバイスを頂いたおかげで、少しずつ光が見えてきました。この復興計画が由岐中学校防災教育の最大の難所でもあり、ターニングポイントでもありました。結果、生徒達もピュアな発想で様々なアイデアを出してくれたおかげで、大きく道が開けていきました。

また由岐中学校の防災教育ではフィールドワークを数回実施し、地域の方々と接する機会を設けましたが、地域の方々はいつも本当に快く協力して下さいだったので、生徒達は沢山のことを学ぶことができました。さらに講師としてサポートして頂いた方々には、防災だけに限らず、福祉のことやカレンダーの作り方などを、生徒達に非常に分かりやすくご説明頂きましたので、生徒達の興味も広がっていきました。彼らのサポートなしでは、由岐町の防災教育は実行し得なかったと思います。

人間はドライとウェットのバランスが重要であると言いますが、防災教育も同じだと思います。防災に関する知識・技能や分析力などのドライな部分と、人や地域、心や自然などを大切に思うウェットな部分、これらをうまく盛り込むことにより、防災教育の内容が充実するのだと思います。

由岐中学校では今後も防災教育を続けていき、将来のふるさとを、ひいては日本を担い支える人づくりを行っていきます。